

## 麦類の赤かび病発生に注意しましょう！

麦類の赤かび病は、子実収量や品質を低下させる重要病害です（写真1）。また、本病菌は人畜に有害なかび毒（DON、NIV等）を産生するため、農産物検査規格では食用麦の赤かび粒混入限度が全麦種で0.0%以下となっています。このため予防的に防除を行い、発生防止に努めることが重要です。

本病は、開花期から乳熟期間にかけて雨が多く、気温が比較的高い（20～27℃）状態で経過すると発生が増加します。気象庁の予報では、今後は気温・降水量ともに平年に比べやや高めとなっており（気象庁季節予報4月6日発表）、赤かび病の発生が懸念されます。

今後の気象に注意し、出穂や開花状況をよく観察して、麦種ごとの適期に留意し、赤かび病防除を行きましょう。



写真1 赤かび病(二条大麦)

### 【防除対策】

- ・麦類の生育状況に合わせた適期防除が重要。六条大麦や小麦は2回防除が基本（表1）
- ・薬剤感受性の低下を予防するため、異なるグループの薬剤をローテーション散布（表2,3）
- ・不稔粒が発生した場合は、赤かび病多発の恐れがあるため追加防除を実施する。

表1 麦種ごとの防除適期

麦種	防除適期	多発の恐れがある場合 (不稔粒発生や登熟期連続降雨など)
二条大麦	穂揃い期7～10日後（葯殻抽出期※1）	1回目の7～10日後に2回目散布
六条大麦	開花始め※2と1回目の10日後の2回散布	3回目散布
小麦	開花始め※2と1回目の20日後の2回散布	3回目散布

※1：穎の先端から葯殻(受粉を終えた葯の殻)が押し出されてくる時期

※2：抽出した葯を初めて認めた日



写真2 【二条大麦】  
穂ぞろい期7～10日後  
(葯殻抽出期)



写真3 【六条大麦】  
開花始め

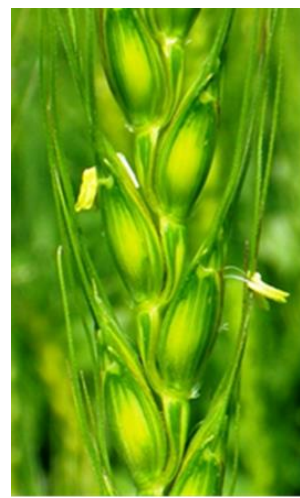


写真4 【小麦】  
開花始め

※矢印の黒色部分が抽出した葯殻

表2 麦類の赤かび病に登録のある主な薬剤（平成29年4月11日現在）

薬剤名	作物名	希釈倍数 (散布液量)	収穫前日数/ 本剤の使用回数	薬剤系統名	FRAC コード
シルバキュアフロ アブル	大麦	2,000倍 (60~150L/10a)	14日前まで/2回以内	E B I	3
	小麦	2,000倍 (60~150L/10a)	7日前まで/2回以内		
ワークアップフロ アブル	大麦	2,000倍 (60~150L/10a)	7日前まで/3回以内		
	麦類 (大麦を除く)	2,000倍 (60~150L/10a)	7日前まで/3回以内		
チルト乳剤25	大麦	1,000~2,000倍 (60~150L/10a)	21日前まで/1回		
	小麦	1,000~2,000倍 (60~150L/10a)	3日前まで/3回以内		
トップジンMゾル	麦類 (小麦を除く)	1,500倍 (60~150L/10a)	14日前まで/3回以内 (出穂期以降は1回以内)	ベンズイ ミダゾ ール	1
	小麦	1,000~1,500倍 (60~150L/10a)	14日前まで/3回以内 (出穂期以降は2回以内)		
トップジンM水和剤	麦類 (小麦を除く)	1,000~1,500倍 (60~150L/10a)	30日前まで/3回以内 (出穂期以降は1回以内)		
	小麦	1,000~1,500倍 (60~150L/10a)	14日前まで/3回以内 (出穂期以降は2回以内)		
ストロビーフロア ブル	麦類 (小麦を除く)	2,000~3,000倍 (60~150L/10a)	14日前まで/3回以内	ストロビ ルリン	11
	小麦				

注1)必ず農薬容器のラベルをよく読み、使用方法・使用上の注意事項を守る。

注2)FRACコードが同一のものは作用点が同じなので、連用を避ける。

表3 無人ヘリコプターによる散布の登録がある主な薬剤（平成29年4月11日現在）

薬剤名	作物名	希釈倍数 (散布液量)	収穫前日数/ 本剤の使用回数	薬剤系統名	FRAC コード
シルバキュアフロ アブル	大麦	16倍(0.8L/10a)	14日前まで/2回以内	E B I	3
	小麦	16倍(0.8L/10a)	7日前まで/2回以内		
ワークアップフロ アブル	大麦	10~16倍(0.8L/10a)	7日前まで/3回以内		
	麦類 (大麦を除く)				
チルト乳剤25	大麦	8倍(800mL/10a)	21日前まで/1回		
	小麦	8倍(800mL/10a)	7日前まで/3回以内		
トップジンMゾル	麦類 (小麦を除く)	8倍(0.8L/10a)	21日前まで/3回以内 (出穂期以降は1回以内)	ベンズイミダ ゾール	1
	小麦	8倍(0.8L/10a)	14日前まで/3回以内 (出穂期以降は2回以内)		

注1)必ず農薬容器のラベルをよく読み、使用方法・使用上の注意事項を守る。

注2)FRACコードが同一のものは作用点が同じなので、連用を避ける。

詳細は、農業環境指導センター（TEL 028-626-3086）までお問合せ下さい。

病害虫情報発表のお知らせはツイッター「栃木県農政部(@tochigi\_nousei)」、農業環境指導センターホームページ（<http://www.jpnp.ne.jp/tochigi/index.html>）でもご覧になれます。